

地域に開かれ、 愛される西南学院へ

吉田 茂生



西南学院は2年後の2016年に創立100周年を迎える。記念式典を2016年5月14日(土)にマリンメッセ福岡で行うよう計画が進んでいる。その他、色々なプロジェクトが立ち上がり、具体化している。皆様にも色々ご協力いただき、すばらしい100周年を迎えたいと思う。

約100年前に創立者のC.K. ドージャー先生は西南学院の創設に先だって、ミッションボードに対して数十回の書簡を出して¹、その中で1914年3月9日の書簡には「福岡の多くの人々は、現在今ひとつの中学校を求めています。」²と男子中学校の設立の必要性を訴えられている。また創立後の1917年、W.H. クラーク先生は南部バプテスト機関誌を通じて「西南学院をして日本におけるもっとも優れた学校とすることは、われわれクリスチャンの義務であります。西南をして第一級の学校にしようではありませんか。すでに種がまかれた西南を見殺しにすることは、我々の恥辱です。良い学校にするには多額の費用が必要です。」³と、創立当時からこのように地域の要望にこたえ、愛される第一級の学校にしようという気持ちが記されている。創立期、また太平洋戦争の戦中戦後、その後の色々な危機を経て、100年近く経とうとしているが、創立当時の宣教師たちの意思を引き継いでいかなければならないと思う。宣教師が意図していた第一級の学校とは、今後も教師が学生・生徒・児童・園児に対するその時代にあった第一級の教育研究・保育を行い、職員がそれをサポートすると共に、建学の精神すなわちキリスト教に則った人格形成を行い、学生・生徒がクリスチャンにならなくても、「キリストの香り」を持って卒業し、社会に出ていつの日か、学院で学んだ聖書の言葉を思い出し、実際の生活の基準にすることが出来る教育をすることだと思う。現在、多くの卒業生がそれぞれの場で活躍されているが、先日、同窓会の役

- 1 『西南学院七十年史』 p227参照
- 2 『西南学院七十年史』 p241参照
- 3 『西南学院七十年史』 p289参照

員の方が、「専門の授業の内容はほとんど思い出さないが、キリスト教学で学んだ『あなたの隣人を愛しなさい』という聖書の言葉や、『サマリア人のたとえ話』などを思い出し、人生の指針にしている」と言われた。このように多くの卒業生が社会で活躍しておられるが、在学中だけでなく人生の中で大きな影響を与えることが出来るように、教職員が今後とも建学の精神を忘れず伝える努力をすることが必要と思う。

さらに100周年を迎えるにあたって、地域を活性化し、地域に開かれた、愛される西南学院にしなければならないと思う。現在いろいろな面で地域のためになるプロジェクトがなされていることは嬉しいことだ。地域の方々から大変喜ばれている。具体的に地域を活性化し、地域に開かれた、愛される西南学院になるために、現在一般に開放しているプロジェクト等、および学生がボランティア活動を行っている事例を紹介する。

1. 西南子どもプラザ

2007年7月より、福岡市の委託を受け大学が運営している。近隣の親子の交流の場として活用。育児相談、子育てに関する情報提供、ミニ講座などを実施。昨年末で述べ20万人が利用している。

2. 西南コミュニティーセンター

2007年4月より大学の知的資源、情報、施設・設備等を地域社会に提供し、社会に奉仕し、社会に愛され、社会とともに、教育・研究を発展させる大学を目指すことを目的として建てられた施設。200名の中規模のホールがあり、大学と地域、同窓生の交流の場になっている。

3. 西南学院大学博物館

1921年第1回の卒業式に間に合うように建設された学院本館・中高チャペルとして利用されてきた建物は、中高移転後2006年5月生涯学習の場として、また広く社会に開かれた大学博物館として改築。キリスト教関連資料の展示や創立者C.K. ドージャーのゆかりの品々を展示し、無料一般公開している。

4. 田尻グリーンフィールド

2008年10月西区田尻にある13.5haの広さを誇る西日本最大級の大学総合グラウンド。陸上競技場、野球場、ラグビー場、アメリカンフットボール場、サッカー場、テニスコート、アーチェリー場などの専用競技場のほか多目的広場を備え、授業や課外活動および地域の一般の方々にも利用いただいている。北側の環境保全ゾーンには湿地や水田を配置し、野鳥観察や地域の環境学習等にも役立てられている。

5. 西南学院大学聖書植物園

1999年11月大学の開学50周年記念事業として大学同窓会からの寄付金を元に開園。約100種の聖書に関連した植物をキャンパス各地に植えている。全国的にも珍しい植物園で市内外の見学者が訪れている。定期的な教職員や同窓生などのボランティアにより管理されている。

6. 遺跡元寇防塁復元

1999年1号館の新築に当たって出土した元寇防塁の遺跡をライトコートに移築復元し、一般公開。市内外の小学生や一般市民が一年を通じて見学に訪れている。

7. ボランティア活動

- ①東日本大震災関連（2011年8月から今日まで教職員が学生を引率し現地に行き震災後のボランティアを行う。10人あまりのチームで31チーム、326名が参加。今後とも継続的に行う予定。）
- ②海外ボランティア・ワークキャンプ（2003年度から、毎年2月に約2週間約15名の学生を宗教主事・教職員が引率し国際飢餓対策機構の協力のもとフィリピンに家の修理や小学校での子どもたちの世話などのボランティア活動をしている。2012年度まで158名参加。参加した学生を中心としてボランティア・サークル Mits を立ち上げ活動している。）
その他いくつかのボランティア・サークルが地域のために継続的に活動している。

一昨年、大学キャンパスグランドデザインを公表したが、その中で(財)修猷協会から購入した土地は、大学生の通学路と共に一般にも開放した並木道として整備する予定である。また東キャンパスが広いため中学生・小学生は遠回りして通学しているが、時間を限定して真ん中に通学路として開放する予定である。

以上のように、現在も多くの施設、プロジェクトが、地域に開放し、愛される西南学院になるように具体化していることは地域住民に喜ばれている。

さらに今後、100周年以降は、大学の知的財産を社会に還元する為に、知的要求の高い社会人学生の受け入れ枠や科目等履修生を増やし、公開講座を今より多く開講するなど、もっと開かれた学院になれば、在学する学生のために刺激にもなり、さらに地域に愛される西南学院になると思う。